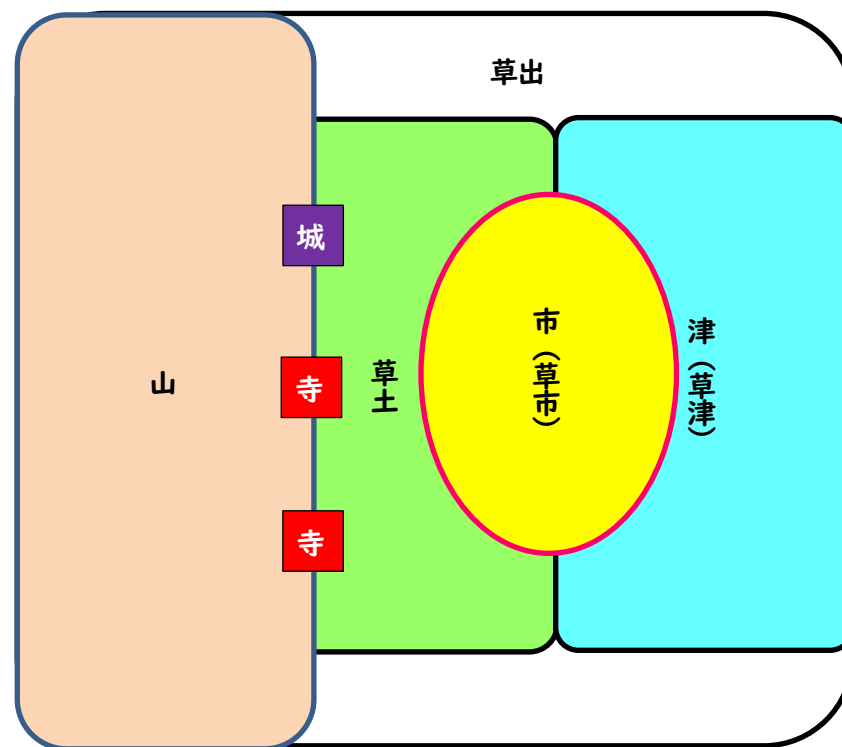


「草戸千軒」について記される中世文書の一覧表

No.	文書の年代	西暦	「草戸千軒」の所在地名	「草戸千軒」についての記載内容 ⇒ そこから分かること	典拠
1	文永11年	1274	くさいて (草出)	鞆の金宝寺(今の安国寺)の本尊「木造阿弥陀如来立像」の造立の際、「くさいて」の住民にも寄附した人がいた。 ⇒ 共に海に面する「くさいて」と鞆の人々が、船を利用して交流!	史料3 『広島県史 古代中世資料編IV』所収「安国寺文書」第1号文書
2	康永2年	1343	草津 (草[出]津)	唯阿弥陀仏という名の時宗の僧が、この年の6月25日に「備後草津」で「往生」(死去)した。 ⇒ 「草津」で時宗の僧が布教活動を行っていた。	『重要文化財時衆過去帳』
3	貞和6年	1350	草津 (草[出]津)	去年、鞆へ下向した足利直冬に味方した内藤盛信は「草津」に馳せ参じ、尾道へも付き従った。 ⇒ 「草津」と鞆の間を、人・モノ・情報などが日常的に行き来!	史料4 『萩藩閥閥録』巻99ノ2(内藤小源太)所収第45号文書
4	観応2年	1351	草井地	足利直義・直冬に味方した上杉朝定は鞆へ来航したが、足利尊氏方の武蔵五郎の上洛を聞くと、「草井地」を出発して陸路で跡を追いかけた。 ⇒ 「草井地」は、鞆の“玄関”!	『太平記』巻第29「越後守石見より引き返す事」
5	明德2年	1391	クサイツ 草土	「クサイツ 草土」の常福寺は、奈良の西大寺の末寺の一つであった。 ⇒ 本堂や五重塔の建つ常福寺を営めるくらい「クサイツ 草土」には多くの人々が居住・来訪した!	史料1 『西大寺諸国末寺帳』
6	文明3年	1471	草土	尾道の西国寺が不断経の修行のための寄付を募った際、「草土」の東泉坊が200文を上納した。 ⇒ 「草土」には、西国寺の末寺と思われる東泉坊が存在!	『広島県史 古代中世資料編IV』所収「西国寺文書」第4号文書
7	文明3年	1471	草土	山名是豊が4月16日に「坪生」に出陣し、「草土」に迫り敵城を落とし、22日に「鞆浦」へ進軍した。 ⇒ 「坪生-草土-鞆浦」というルートが存在!	『三浦家文書』第75号文書
8	文明17年	1485	草出津	「草出津」の神上寺跡の後ろ側の住民は、全て尾道の権現堂の案内で熊野那智大社へ参詣した。 ⇒ 「草出津」は、近畿地方の大寺社が宗教活動を活発化するのにふさわしい場所!	史料2 『広島県史 古代中世資料編V』所収「熊野那智大社文書(潮崎稜威主文書)」第9号文書
9	天正19年	1591	草戸	永正年間(1504~21)の中頃の一時期、渡辺越中守は、毛利氏の本拠の安芸国吉田に身を寄せていたが、後に備後国の「草戸」へ戻った。 ⇒ 16世紀初頭の備後国の国人渡辺氏の本拠が「草戸」にあった。	『広島県史 古代中世資料編V』所収「譜録」(渡邊三郎左衛門直)第24号文書



推定される「草出」の空間構成